

ねりとう GOLF

練馬稲門会ゴルフ部会会報

2009冬号

ゴルフ部会会報の発刊にあたって

部会長 中島 晴喜 (S33 商)

練馬稲門会サークル活動としてのゴルフ部会は、結成以来約15年が経過いたしました。そして近年は会員各位のご協力により、「月例コンペ」も回数を重ねるごとに盛会になり、ご承知のように昨秋9月には第100回目の記念コンペを開催することが出来、ご同慶の至りです。そして100回を記念して、写真のような旗を新調しました。

さらに当ゴルフ部会として一層のコミュニケーションを図り、盛会を期すために、標記の「会報誌(ねりとうGOLF)」の発刊を企画する運びになりました。発行は例会がお休みの2月、8月を予定しています。会員の皆様には今後とも月例コンペ同様、原稿の寄稿などにご協力いただきたく、そしてこの会報誌が会員の情報誌として末永く愛されるよう、お願い申し上げます。



2009年前半の月例コンペ予定

詳細については、改めてご案内しますが、現在のところ下記を計画しています。

第104回	3月24日(火)	日高カントリー
第105回	4月14日(火)	石坂カントリー
第106回	5月14日(木)	鳩山カントリー
第107回	6月上旬、北海道	で開催すべく計画中

第100回記念コンペに優勝して

高崎 龍介 (S39 商)

平成6年10月に武蔵豊岡コースで第1回が開かれ、平成20年9月に第100回を迎えた練馬稲門会の記念すべき月例コンペに、全く図らずも優勝の栄誉を授かり、誠にありがたく感激しています。

これも長きに亘りこの会を継続されてきた諸先輩の努力の賜物であり、また当日車で送迎して下さった武田さんや、同じ組で楽しく気持ちよくプレーさせて下さった田中さんご夫妻や鈴木千代子さんのお陰と、感謝申し上げます。

当日のプレーを振り返ると本当に恥ずかしいスコア(平成20年のワースト2のグロス)でしたが、ダブルペリアで実施された最後の月例でハンデホールに助けられ、25.6ものハンデに恵まれ、準優勝の清水さんとはネット0.1の差でした。しかも100回を記念して行われた“競馬”でも3-6を当て、当選金をいただくというダブルのハッピーでした。その上、100回を記念して中島ゴルフ部会長が用意された大きな優勝カップに名前入りのリボンを飾る栄誉もいただきました。

省みますと、練馬稲門会ゴルフ部会には平成15年に初参加させてもらいましたが、平成17年9月にやはり同じ霞ヶ関CCで初優勝しているのを見ると、コースにも恵まれたといえましょう。100回の中で2回しか開催されていない霞ヶ関で2回とも優勝したのですから。

その結果、ハンデ戦になってからは13という立派なハンデをいただき苦戦していますが、加齢に負けないよう精進して、ハンデ戦でも再び栄誉をいただけるよう努力いたしますので、今後ともよろしくご指導ください。

第101回優勝者

戸津川 隆久 (S39 政経)

2008年10月9日、日高カントリークラブで開催された第101回月例コンペでアンダーハンデの下、79ストロークでベストグロ優勝することが出来ました。これはたまたま調子の波が上向きの時であり、10月にはコンペが4回入っており、結果的には優勝2回あとは3位、5位に入賞致しました。

しかしながらゴルフコンペには運が必要であり、他の参加者の調子および当日のツキに左右されることが大であり、私にとってはラッキーな10月でした。また第100回月例コンペより参加者全員に入賞のチャンスをつくるべく、ダブルペリア方式よりアンダーハンデ方式に変更されましたので、私も今後2年間はハンデ5での闘いとなるため、ウォーキングによる体力の維持および練習による技術の向上を図り、入賞を目指して頑張りたいと思いますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



第102回優勝者

鈴木 修 (S41 商)

平成20年11月13日、小川カントリークラブで第102回の月例会が14名の参加のもとで行われました。

私は妻と一緒にひさしぶりに例会に参加させていただいたところ、中島晴喜部会長のご配慮による(?) 甘いハンディのお陰で、優勝の荣誉に浴することができました。心優しい高崎龍介先輩、大学時代に同じゼミであった徳田浩平さんが同伴者であったことが、優勝したもっとも大事な要因であったことも申し添えます。

私は練馬稲門会の活動には、何一つ世話焼き活動をしていないにも拘わらず、ゴルフ部会をはじめ様々な企画のお誘いを受け、そして、気ままに参加すればいつも温かく迎えてくれる練馬稲門会に、つくづくありがたさを感じております。

月例コンペには今後も出来る限り参加させていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



第103回優勝者

五十嵐 修三 (S38 商)

昨年から練馬稲門会に入会させていただきました。月例コンペを楽しみに参加いたしております。この会が100回を超えていることに驚きました。中島部会長はじめ幹事の方々のご努力に敬意と感謝を申し上げます。

私は昨年、45年間の長いサラリーマン生活を卒業しました。ゴルフ大好き人間ですが、腕前はいくらやっても上達しません。文字通りの「下手の横好き」です。

今回優勝できたのは、たくさんハンデをいただいたことと、ご一緒の組でラウンドいただいた戸津川様、石井様のおかげです。お二方の素晴らしいプレイに一生懸命になってついていきました。優勝できましたこと、とてもうれしく感じております。

2009年は丑年。ゆっくりと着実に歩んで、もう少し上達できるよう身体を鍛え、練習に励みたいと思っています。「月例コンペ」に出来る限り参加させていただきますので、本年もよろしくお願ひ申し上げます。



通算100回コンペを振り返って

データ1. コンペ参加者数：総数1,796名(1回当たり平均18名)

データ2. 回数毎のコンペ参加者上位ランキング

- ① 48名 ('06. 3. 29 水) #79鳩山CC, 浦和と合同
- ② 46名 ('01. 6. 25 火) #41石坂CC, 豊島、文京と合同
- ③ 40名 ('07. 5. 8 火) #90狭山GC, 早慶対抗、小平と合同
- ④ 38名 ('05. 9. 13 火) #74霞ヶ関CC, 早慶対抗
- ⑤ 35名 ('06. 6. 7 水) #82高坂CC, 豊島、大田と合同
- ⑥ 32名 ('04. 10. 15金) #67高根CC, 定例コンペ
- ⑥ 32名 ('08. 5. 13火) #98飯能グリーン, 早慶対抗
- ⑧ 30名 ('05. 6. 3 金) #73飯能グリーン, 早慶対抗

レフティーの悩み 矢澤 西二 (S30 文)

一般に、ゴルフは全てにおいて左利きに不利であるということで、左利きの人でも右打ちにしている人が多い。私は1964年頃からゴルフを始め、これまでずっと左を通してきたが、クラブ以外のことではさほど痛痒を感じていない。何といてもクラブの選択には頭が痛い。ゴルフを始めた当初、メーカーも限られており、主流は米国製であったが、私は自分の身体に合わせて、ハーフセットのみを作ってもらった。当時は既製品より作る方がむしろ主流であったようだ。その頃はウッドの1, 3番共パーシモンであった。このクラブ以降3代目くらいのは手元にはない。どれも希少な後輩のレフティー達に譲ってしまったからである。

その後、ゴルフの普及とともに、クラブの種類も多種多様になったが、国産の左用のものはそれ程なかった。1970年の春、米国のコーネル大学を訪問した折、面倒を見てもらった学長秘書役から、到着早々にゴルフに誘われた。

大学に18ホールのコースがあった。遠慮がちにレフティーであると告げると、いと容易とばかりクラブを用意してくれ、米国では左利きの人が多いので左用のクラブが入手し易いことがわかった。以来、長い間、クラブは米国で求めることにした。したがってPINとかCALLAWAYを使うことが多かった。中でも今はないPINのクラブで、新仕様でまだ左用ができていないとき、その1号が日本に送られてきたが、それが赤色のカーボン・シャフトで、これだけは今も大切に保存している。

近年は日本でも左用のものが増えているが、このところ専ら、ダンロップのXXIOを愛用している。私もゴルフの出来る最終世代に入りつつあるが、年と共にウッド・クラブを多く入れるようになったが、番手の多い左用がないのが悩みである。



通算100回コンペを振り返って		
データ3.	開催コース別上位ランキング	
	①鳩山CC(8回)	④岡部チサン(4回)
	②石坂CC(7回)	④武蔵富士CC(4回)
	③おおむらさきGC(6回)	④武蔵松山CC(4回)
データ4.	地域別開催数	
	①埼玉(88回)	④東京(1回) ④海外(5回)
	②茨城(3回)	④群馬(1回)
	③栃木(2回)	④千葉(1回)
データ5.	海外コンペ開催地域	
	①ワイレアGC(ハワイ・マウイ島)	'01. 2. 18(日)
	②ベトナムCC(ホーチミン市)	'04. 2. 11(水)
	③キングフィッシャーGL(サイパン島)	'05. 4. 11(日)
	④台湾CC(旧淡水コース)	'06. 2. 22(水)
	⑤亜龍湾GC(中国・海南島)	'07. 2. 8(木)

ゴルフと私

土屋 敏子 (S32 文)

私がゴルフを始めたのは30年以上前のことで、まだ女性教室のレッスン等が無い頃でした。ゴルフを続けるのに自動車の運転の必要を感じて、夫の許しを得たのです。ゴルフを勧めた手前、許さざるを得なかったようです。ゴルフの楽しさに加えて、自動車に乗ることにより、友人関係も行動範囲も広がりました。

川越グリーンクロスと寄居カントリーを買ってせっせと通っていた頃に、塩田さんの訪問を受けました。練馬稲門会の開拓をするためにオートバイに乗って何度も来てくださいました。そして、先ず夫の心を動かしてくださいだったので、この楽しいゴルフ部に入ることが出来ました。

それからは都合がつく限り出席して楽しませてもらっています。どなたと組んでも、みなさん思いやりがあって、お上手で、しかも学校に対する誇りと愛情でしっかり結ばれているので、とても居心地が良いのです。このお世話を一手に引き受けていらっしゃる中島さんは、並大抵のご苦勞ではないとお察しして、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、ご近所の野田さん、牛山さん、縫村さんは車を出して送り迎えをしてくださいますので、とても助かっています。最近私はどの会でも高齢のほうですが、この練馬稲門会には80歳を過ぎても赫灼としていらっしゃる三宅さんがいらっしゃいますから、常に励まされ元気をいただいています。

このところ中島さん、田中さん、鈴木さん、長野さん、小松さんの奥様方も出席して下さることが多くなって嬉しいです。幹事さん方にはお世話をおかけしますが、今後ともよろしく願いいたします。

ゴルフ雑感

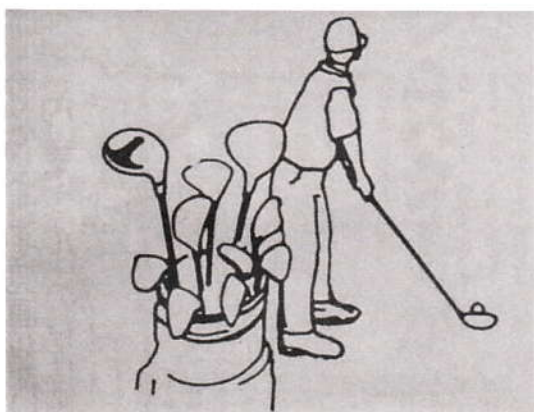
清水 晃 (S34 理工)

会報誌の発刊、おめでとうございます。発刊を機に会員同士の友好がますます深まり、楽しいプレーが出来れば幸いです。

ゴルフが持つ不思議な魅力に取り付かれて40年が経ってしまいました。飛ばす人がアプローチでつまづいたり、アプローチの上手な人が飛ばせなかったり、ゴルフとは面白いものです。しかし最後は寄せとパットがスコアをまとめるコツのようです。

あと1年で後期高齢者になるので、毎年飛距離の低下に悩んでいます。しかし言い訳と愚痴ばかりの高齢者でありたくない。飛ばないのは道具が己に合わないせいだということにしています。昨年の月例会で石渡先輩にご教示いただいたドライバーを早速購入して使用していましたが、またも己に合わなくなってきました。さらに得意のパットまで入らなくなり、暮れにパターを新調しました。早くコースで使用したいと思っているこのごろです。

「年をとったら道具ですよ」のアドバイスを大事に、今後もゴルフと共に人生を楽しんで生きたいと思っています。



あと20年続けられるか

小島 滋 (S48 社会)

ゴルフを始めたのはいつの頃からか？ たしか学生時代はやっていなかったと思う。きつい練習や試合の合間にゴルフなどできやしない。いやゴルフ自体、何たるかを知らなかった。知ったとしても、おやじがやる遊びぐらいにしか考えていなかった。初めてのゴルフは、社会人になって会社の人と川崎あたりの河川敷でやったのか。親父に連れられて、栃木の山の中にあるゴルフ場でやったのか定かではない。いずれにしてもたいした練習もせず、いきなり行った記憶がある。スコアは覚えていない。

会社を辞めて店を手伝うようになって、時々ゴルフをしていた。といっても、いわゆるツキイチゴルフ程度である。あるとき知り合いのM氏が、ちなみに慶応のゴルフ部OB、レストランの視察にアメリカに行かないかと誘ってくれたので行くことにした。どうせならいいゴルフ

場があるから一緒にプレイしようということになり、何も考えずにOKした。そのゴルフ場はサンフランシスコの南にあり、海岸線をうまく利用したゴルフ場とのこと。敷地内のザ・ロッジに宿泊し、次の日プレイした。そこがペブルビーチゴルフリンクスで、全米で憧れのゴルフ場だと知ったのは後のことだ。もっと楽しくゴルフをすればよかった。もっとスコアが良かったら、コースをしっかりと覚えていればよかった。なんとももったいないことをした。残念である。ただ半島に突き出た旧17番ホールは、なぜか印象に残っている。

ゴルフは年をとっても出来るスポーツだ。この先も続けようと思っている。後は息子と一緒に回れば最高だけれども、あと20年続けなければだめか。

